1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100077		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい静浦	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市獅子浜111－1		
自己評価作成日	平成27年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2291100077-00&PrefCd=22&VersionCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1
訪問調査日	平成27年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じられるように畑で野菜を作ったり、地域特産の椎茸を継続して栽培したり、漁港が近いこともあり、近海物の鯛や鯵の地魚を食事に出したりしています。ケアプランに沿ったケアができるように、個々の利用者様の希望をフロアースタッフが情報収集し共有して、必ず実行できる様に業務の流れを工夫する事により、その方にあったレクリエーションとして散歩、買い物、ドライブなどの外出を積極的に行っています。また、日々の日課の中に、個々の利用者様の生活歴や力を生かした役割を行っており、それが施設屋内だけでなく施設屋外まで使い広い視野で行っています。行事を必ず毎月季節やイベントに応じて行い、その都度ご家族様のご参加を伺い、ご家族様に協力を頂いて行事を行ってる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは富士山を望む閑静な海岸にあり、広い敷地には庭土で造られた築山や菜園・老人憩いの場等が有る。自然に恵まれ行政や地域住民とのより良い環境の中で、利用者が安穏な日々を過ごす事が出来るよう、介護に努めている。法人共通の理念である「敬愛・創造・貢献」を受け、ホーム独自の理念に加え1階と2階の各フロア毎に毎月の目標を定めて運営している。また、管理者は法人と共に特に人材育成に力を入れており、職員の育成が進み、利用者や家族そして近隣との良好な関係が築かれている。その結果、家族アンケートでは高い回収率と感謝の気持ちが寄せられている。

V．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の意識づけを心がけ毎朝唱和している。またグループ理念は事務室、玄関、各フロアーに掲示し夕方の申し送りの際に唱和している。	法人の理念を受け、ホーム独自の理念として「みんな、笑顔でいつものくらし」を謳い、その中で【地域と共に信頼されるホーム】を目指している。更に、1階と2階の各フロア毎に毎月の目標を定めて実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	午後になると、施設前のベンチに地域の方々が集まって、その際利用者様やスタッフも加わって談話している。地元の祭典や清掃・行事には利用者様と共に参加をしている。地域のボランティアが増えた。地域の小中学校との交流も深まっている。	広い庭のベンチには老人会の人たちが集まり、自由におしゃべりをしていた。地域との関係は良好で、地域行事やボランティア・小中学生の社会勉強の受け入れ等の日常的な交流が見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の地元自治会長さんや民生委員、老人会の方々と交流を持つようにしています。行事でボランティアを招いたときは地域の方も招待し一緒に楽しんでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催しホームでの出来事や報告などを口頭だけでなく、様子がわかる様にDVDの映像で伝えるとともに、家族からの要望、意見をその後の運営に生かすように努めている。	2ヶ月に1回着実に開催されており、通常の参加者の他に介護相談員や市会議員・薬局等も参加している。運営上もDVDを活用しての報告等の工夫もされており、率直な意見や要望を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて密接に連絡を取りながら運営している。また、月1回介護相談員の方が来訪され、来訪時は楽しそうに会話されている。	日常的に報告や連絡・相談を行なっている。介護相談員も毎月訪問してくれるようになり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じてスタッフ全員が身体拘束をしない事を理解し徹底している。日中フロアーの窓はすぐに開けられる様にしています。身体拘束ゼロ宣言を申請した。	身体拘束0宣言を行い、マニュアルを定めている。身体やスピーチ・ドラッグそれぞれの具体的な禁止事項を徹底し、拘束0に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	悪い言葉使いや利用者の行動制限も虐待である事を会議の中で話し合い業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について理解をふかめるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくりと読み合わせ、説明をしている。随時ご家族様からの問い合わせにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱を設置し、気軽に活用していただくように面会時には話している。また、来訪された時は出来るだけ多く、話をさせて頂いている。	利用者との日常の触れ合いや新しい発見をするための努力をし、ご意見箱や電話・来訪時の対話等を通じて意見や要望を探り、運営に活かしている。家族には「ふれあいお便り」配布の後に電話での確認も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議や勉強会などで職員の意見や提案を反映する機会を設けている。その内容によっては社内の代表者会議に提案している。	法人の社員教育プログラムの一種であるキャリアパス制度があり、職員との面談が盛んに行われ意見や提案が採用されている。特にこのホームのリーダーの成長が著しく、他ホームの管理者になっている人もいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行った職員の勤務状況の評価について代表者が管理者と面談をして公平に判定するようにし、向上心を持って働けるようにし職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の事業所ミーティングや定期的な内部研修を行っている。外部研修を受講する意欲的な職員もいる。フロアーごとの勉強会も始め、実技指導にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、利用者本位のケアができる様に個別での関わりを増やし、ご本人様の思いを傾聴し、理解を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から性格、好みや生活ぶりについての情報を聞き、家庭での生活との継続性を重視して受入を行っている。入居されてからの様子をこまめに報告・相談し、ご家族様宛てのおたよりに様子を記入し、日々の写真を同封している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を急がれた場合、空室がない時は近隣施設またはその他のサービスを紹介しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、調理等の家事を一緒に行っている。その他一人一人にあった役割を持っていただけるようにしている。また庭の手入れを職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加していただけるように心がけている。また、年賀状やお手紙、そしてお誕生日の計画などもご家族様と一緒に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時にご自宅に立ち寄ったり、馴染みの場所へ立ち寄ったり、友人の来訪時に昔の話に耳を傾けるように心がけている。	懐かしい個別の想いを引き出す努力をしている。来訪者が多く、友人や家族との絆を大切にしており、散歩や買い物での顔見知りとの会話を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者仲に合わせた席の配置や、散歩等へのお誘いをし少人数グループで編成をしてコミュニケーションが図れる関係を作っている。また、届け物をお願いしたりなどして1階と2階の交流を図っている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や逝去された方、また他施設に転居された方に対してホームでの情報を提供し、その後いつでも相談に応じる体制をとっている。		
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思に沿えるように、買い物、散歩、運動、レクリエーション等を実施している。個別で関わる際はご本人様の希望や思いを尊重している。	家族等からの情報のほか、利用者と日々接する中での声掛けや言葉・表情などの仕草から思いや意向を肌で感じ取っている。感じ得た情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の他に、居宅ケアマネからの情報提供や、ご家族様からも生活歴やサービス利用歴を把握するように努め、スタッフに周知している。また、自宅で以前使っていた食器や衣類、家具など馴染みのものを持ってきていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同時間のバイタルチェックを行い、それぞれの利用者のケアプランに沿ってケアを行っている。体調の変化はすぐに記録に残し、共有している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングでアイディアを出しあい、現状に即した介護計画になる様にその都度サービス担当者会議を行っている。	利用者や家族からの意見・要望のほか、日々の介護記録を下に、モニタリングやカンファレンスを行っている。3か月～6か月ごとに見直し、急変時にはその都度介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することの大切さをスタッフに認識させている。また、1日2回の申し送りの際には、記録をよく確認することを徹底させ、記録の書き方の研修を行っている。介護計画をファイリングし職員全員が把握している。それに伴った介護計画に沿った記録を書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連事業（レンタル事業）の活用を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、行事へのボランティアの参加や、近隣商店での買い物等を通じて交流を図っている。また、自治会との交流をしている。運営推進会議には必ず民生委員の出席して頂いている。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診により医療連携を図っている。専門外医療については、関係医療機関を紹介して頂いている。	かかりつけ医の受診は利用者と家族の希望を取り入れている。協力医療機関からは毎月2回の往診があるほか、緊急時には24時間体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の看護師、協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送り共有している。緊急時には24時間電話対応が可能な体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関からは連携室を通じて利用者様の現状についての情報を得ている。また、ご家族との連絡もその都度とっている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の時に生前意向確認書を頂いている。半年ないし1年に1度見直しをさせて頂いている。ご本人様、ご家族様に終末期についての考えを伺いご希望に添えるよう医療との連携を図り体制を整えています。	利用者が重度化した場合の対応に係る指針により、家族等から確認書の提出を受けて半年から1年後、更に見直しを行っている。今までに、家族や主治医の協力の下に数例の看取りの支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当ての方法や緊急時の対応の研修を学び、通報の判断の周知徹底をしている。また、職員の中に応急手当普及員の資格を持った職員がいる。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災を想定した防災訓練を行っている。2ヶ月に1回災害用伝言ダイヤルとツイッターを用いた連絡訓練を行い、自火報に連動したメール配信サービスを利用し全職員に情報が共有できるようにしている。	2か月毎に家族を交えた災害用伝言ダイヤルによる連絡訓練を実施している。津波の時は近くの海抜20メートルに避難場所はあるが、利用者の避難には難題がある。	備蓄の生活用水の確保が望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問のノック、羞恥心の尊重、一人一人の空間づくり、目線にあった掛け声等を行っている。	言葉かけや敬語の使い方については、その利用者に合った言葉遣いを徹底させている。利用者同士のいざこざには、職員が間に入って距離を置くなどして利用者の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で思いをさりげなく伺い、個別で関わることにより実現を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臥床起床時間を決めず個々の生活リズムを尊重している。その時の体調に合わせ、ご本人様の意見や思いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用をしている。季節の衣類の購入希望の時はご家族様の許可を頂き職員と一緒に買いに行き、選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にできるだけ利用者様の希望を反映するようにしている。買い物、調理、片付け等一緒に行っている。要望の中で金山時味噌や梅干、漬物などの馴染みの食べ物も付けあわせとして提供している。	日々の献立は決めていないが、利用者の希望にできるだけ沿うようにしている。職員の一人が検食し味見と安全性に配慮している。また、行事や誕生日には本人の希望の食事を呈している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮するとともに、キザミ、トロミ、食器類にも気を配り、カロリーコントロールが必要な方には盛り付けの工夫をしている。また、昼食前には必ず口腔体操を行っている。季節にあった飲み物を揃え、水分補給としてゼリーやシャーベットを手作りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアの声掛けと見守り又は介助をさせていただく。月に2～3回歯科往診があり、必要に応じて治療だけでなくスケーリングなどを行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者様の排泄パターンを把握し必要があれば、時間でトイレの声掛けを行っている。「できるだけトイレで排泄」を目標としている。	排泄記録表の活用や利用者本人の仕草等により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。自尊心を傷つけない様に注意を払い、出来る限りトイレで気持ちよく排泄できるように支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、乳製品、水分の摂取や適度な運動を心掛けている。また、必要に応じて医師に相談し下剤でコントロールすることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者様の希望に沿って入浴して頂いている。冬季にはみかんの皮、柚子等を乾燥させて風呂に入れている。	週に2～3回の入浴を基本としている。季節によりみかん湯や菖蒲湯・バラの花を入れるなど楽しく入浴できる支援をしている。また、入浴の際には検温や身体の様子を見るなど、健康面でも配慮が行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動を心がけ、一人一人の習慣や体調に合わせて支援している。温かい飲み物の提供や寝具の調整や空調管理に気を付けてる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬一覧表を作り、ダブルチェックをしている。処方箋の内容や用法を職員全員が周知をし、その観察をしている。また、血圧の薬や下剤の薬は別包にし、そのときの体調に合わせ服薬できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	盆暮れ御彼岸には、お墓掃除ができるよう支援をしている。ヌカミソの手入れや食事の片付けなどをそれぞれ担当している利用者様がいる。また、ボランティアさんの協力を得たりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩やドライブに出かけています。季節のイベントの見学にも行っています。また、ご家族様との外食や外泊もされている。	玄関前の広場にはベンチが置かれ、近隣の老人クラブの人たちと利用者が歓談する場になっている。また、陽気の良い日には近くの公園等への散歩やドライブの支援が行なわれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーやお店に職員が付き添い、買い物を楽しんでいただいている。また、欲しい物がある時はその都度ご要望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の便りや電話等にはできるだけ対応している。ご利用者様に手紙を自筆で書いていただいてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁への掲示物を季節に合わせて随時変えている。エアコンや加湿器などの空調設備を利用し居心地のよい空間づくりを心掛けている。また、季節の生花などを利用者様に生けていただいている。	共用空間は、常時適温に保つことや採光に注意が払われている。季節の生け花や行事の写真等で四季を感じられる配慮がされており、利用者の生活にメリハリを持たせるような支援が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろいで頂ける団らんの場所として、リビングルームにはソファーを置いている。、天気の良い日にはデッキに出て外気浴をしながらのお茶の時間を楽しんでいる。それぞれの趣味や嗜好にあったコミュニケーションが図れる関係を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを出来るだけ多く持ち込んでいただき、居心地のよい生活を送っていただけるようにしている。部屋には家族の写真なども自由に飾っていただいている。	利用者一人ひとりが、自身にあった家具や家族の写真・テレビ等を持ち込み居心地よく過ごせる居室が確保されている。中には使い込んだミシンを持ち込み、食卓マットやふろ場の暖簾の縫い物をしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにしている。また、スタッフと一緒に料理や食器洗いはもちろん、準備、片付け、収納までしている。自立入浴支援として滑り止めや手すりの設置をしている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2291100077		
法人名	有限会社　在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい静浦	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市獅子浜111－1		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2291100077-00&PrefCd=22&VersionCd

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1
訪問調査日	平成27年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

食事の献立の希望を伺い、一人一人の食形態で提供しています。天気のいい日は、散歩やドライブ等外出する機会を作り、日常生活の中では、体操や一緒に歌を歌ったり、お話をしたり穏やかに生活できるよう環境づくりを心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の意識づけを心がけ毎朝唱和している。またグループ理念は事務室、玄関、各フロアーに掲示し夕方の申し送りの際に唱和している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と進んで挨拶を交わし、地域の祭典や掃除にもご利用者と参加しています。夕方になると、ホームの玄関先に地域の方々が集まり、井戸端会議が毎日の習慣になっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の地元自治会長さんや老人会の方々との交流を持つようにしています。運営推進会議に地域の民生委員2名に呼びかけ、出席いただいています。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月に1度運営推進会議を開催、しホームでの出来事や報告等を伝えると共に、家族からの要望・意見をその後の運営に生かすように努めています。日々の利用者の様子などをビデオに収め見て頂いています。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて、密接に連絡を取りながら運営しています。月に1回訪問相談員の方が来られご利用者と談話しています。		
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じて、職員全員が身体拘束をしない事を理解し、徹底しています。身体拘束0宣言を申請しました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	悪い言葉使いや無視・介護放棄等も虐待である事を話し合い、ご利用者の行動を規制しないように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について、理解をふかめるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくりと読み合わせ、説明をしています。随時ご家族様からの問い合わせにも対応しています。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置し、気軽に活用していただくように、面会時に話をしています。また、来訪してくださった時は、出来るだけ多く話をさせて頂いています。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議や勉強会などで、職員の意見や提案を反映する機会を設けています。その内容によっては社内の代表者会議に提案しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行った職員の勤務状況の評価について、代表者が管理者と面談して公平に判定するように、向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月２回の事業所ミーティングや定期的な内部研修を行っています。外部研修を受講する意欲的な職員もいて、実技指導にも力を入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の生活暦を把握し、帰宅願望の強い時にはスタッフとドライブに出かけたりしています。施設での生活に馴染むまで居宅のケアマネに情報を頂き、職員が個別に対応し信頼関係を築きながら、ご利用者本位のケアに心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から性格・好み・生活ぶりについての情報を聞き、家庭での生活との継続性を重視して受け入れを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を急がれて空き室がない場合は、グループ内の施設や近隣の施設、またはその他のサービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の出来る事を探し、職員と一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加して頂けるように心がけています。また「おたより」でご利用者の生活の様子をお知らせし、ご家族との一体感が失われない様に努めています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時には馴染みの場所に立ち寄ったり、友人や知人の訪問時に昔話に耳を傾けるように心がけています。電話にてのやりとりもしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一体となれるレクリエーションを探し提供しています。また、ご利用者同士の関係に配慮した席の配置をしています。お茶の時間や、レクの時間を利用して、1Fと2Fの交流も積極的に行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や逝去された方、また他施設に転居された方に対して、施設でも情報を提供し、その後いつでも相談に応じる体制をとっています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に沿えるように、買い物・散歩・運動・レクリエーション等を実施しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の他に、居宅ケアマネからの情報提供や、ご家族からも生活歴やサービス利用歴を把握する様に努め、スタッフに周知しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同時間のバイタルチェックを行い、それぞれのご利用者のケアプランに沿ってケアを行っています。体調の変化等は記録しています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス・モニタリングでアイデアを出し合い、現状に即したその人らしい介護計画としています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録する事の大切さをスタッフに認識させています。また、1日2回の申し送りの際には、記録をよく確認する事を徹底させ記録の書き方の研修を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活に必要な福祉用具の関連事業（レンタル事業）を心がけています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、行事へのボランティアの参加、近隣の商店での買い物等を通じて交流を図っています。自治会との交流もあり、運営推進会議には、地域の方も出席いただいています。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診により、医療連携機関の医師・看護師と連携し、医師・看護師から得た情報は、常に現場に申し送りをし、共有しています。緊急時には24時間電話対応可能な体制を整えています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の看護師、協力機関の看護師と連携しています。看護師から得た情報は、常に現場に申し送り、共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関からは、面会や電話等で毎月利用者の現状についての情報を得ています。また、ご家族との連絡もその都度取り合っています。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族に終末期のついての考えを伺い、ご希望に添えるよう医療との連携を図り、体制を整えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当の方法や緊急時対応の研修を学び、通報の判断の周知徹底をしています。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災を想定した防災訓練を行っています。2ケ月に1回災害用伝言ダイヤル訓練とツイッター訓練を職員全員参加にて行っています。地域の防災訓練には職員が必ず1名参加しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時のノック・プライバシーの尊重・目線を合わせた声かけ等を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の時間を作って、関わりを持つようにし、ご利用者の気持ちを引き出すように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせてコミュニケーションを図り、レクリエーションへの参加を強要しない等ご利用者の希望を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用をしています。スタッフとモーニングケアのときに、その日の衣類を一緒に選び、男性は髭剃り、女性は整髪等毎日の整容に心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に、できるだけご利用者の希望を反映するようにしています。また、買い物も出来る限り一緒に行い、苦手な献立の時は、代用メニューを提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮すると共に、刻み・トロミ・食器類にも気を配っています。年間を通し水分表を作り、水分補給にも心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を行い、また月2回協力医の往診があり、歯科衛生士から口腔指導を受けています。食後は必ず口腔ケアを行い、3ケ月に1度スケーリングも行っています。毎晩義歯洗浄剤にて、清潔の保持を心がけています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれのご利用者の排泄パターンを把握し、声掛け誘導に努めています。「最後まで、できるだけトイレでの排泄」を目標としています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維・乳製品・水分の摂取や適度な運動を心がけています。また、必要に応じて医師に相談し、下剤でコントロールする事もあり、水分摂取の難しい方は、手作りゼリーなどを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数や時間等については、出来るだけご利用者の希望に沿っています。季節により干したミカンの皮やユズ等を入れて楽しんでいただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動を心がけ一人一人の習慣や体調にあわせて支援しています。温かい飲み物の提供や空調管理にも気をつけています。。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬一覧表を作り、ダブルチェックをしています。処方箋の内容や用法を職員全員が周知をし、その観察を行っています。服薬困難な方に対して、服薬ゼリーを用いて個別対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字レクへの参加や、嗜好品で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、散歩に出かけ、また月担当者を決め、ご家族にも参加しやすい計画も心がけています。ドライブを兼ねて、スタッフと一緒に足湯などにも出かけています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に職員が付き添い楽しんでいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお便りを読んで差し上げ、近況について一緒に喜びを分かち合っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の換気や空調の管理、照明の明るさに気を配り、作品や写真の掲示、季節の花を飾る等心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームやその他の空間にソファーを置き、自由にくつろいで頂き、団欒の場所として使用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出来るだけたくさんの馴染みの物を持ち込んで頂き、居心地の良い生活を送って頂けるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにしています。また、洗濯物を干したり・取り込・たたみ・片付け・収納などを職員と一緒にして頂いています。		